

『天一閣蔵明代科挙録選刊』 簡介

森田 憲司

2006年に寧波出版社から、寧波天一閣が所蔵する明代の進士登科録が、翌2007年には、同じく会試録が、影印刊行された。以前に台湾の台湾学生書局から刊行された『明代登科録彙編』をあわせれば、明の登科録については、かなりの数を見ることができるようになったことになる。その細目は別に掲げる。

中国歴朝の科挙合格者の名簿としては、宋代については、紹興18年(1148)、宝祐4年(1256)の2つ、元朝については元統元年(1333)のみの、あわせて3つの登科録が現存し、それに加えるに至正11年(1351)の進士題名碑が残るだけであることはよく知られており、それと比べると、明朝登科録の残存数の多さがわかるし、それらがまとめて影印、公開されたことの意義は大きい。大部の叢書なので、内容の詳細な検討には時間がかかろうが、ここでは、この叢書を紹介するために、これまでに利用が可能となった明代の登科録について整理しておくとともに、元朝史史料としての利用の可能性について簡単に述べてみたい。

その前に、基本的な事実の整理をしておこう。明朝においては、科挙は、***年には始まり、基本的には3年に一次、おこなわれた(以下、明の科挙についての基本的な事実は、郭培貴『明代科挙史事編年考証』[科学出版社 2008]を参照した)。今回『天一閣蔵明代科挙録選刊』が出版されたことで、学生書局のものをあわせると、合計88次おこなわれた科挙のうち、進士録では47次、会試録では40次が、影印されたことになる。

もちろん、これらの文献は第一に明代史の史料であり、今回の影印の明代社会史研究への意義の検討は筆者のよくするところではないが、明代史においては、科挙研究が盛んにおこなわれていることは、先ほども名をあげた『明代科挙史事編年考証』の「前言」で述べられている、明代科挙研究の概観を見れば知ることができる(ちなみに、同書では今回の影印本が利用されている)。

一方、筆者の関心の対象である宋元官僚社会の研究への利用という角度から見てみると、どうであろうか。登科録の官僚社会史研究への利用といえば、まず想起されるのが、周藤吉之の「宋代官僚制と大土地所有」(社会構成史大系 1950)であることは言うまでもない。周藤は、登科録の一項目である、新進士の先世三代、すなわち父、祖、曾祖についての記事を材料に、宋代における支配階層の固定性(あるいは流動性)を論じている。紹興18年については、筆者自身も、自分なりに数えた表を作成したことがある(「士大夫と科挙」[『週刊朝日百科世界の歴史』47、1989])。一方で、官僚家系について考える史料とすにあたって、登科録には、科挙登第者名簿というそれ自体の性格に由来する限界があることは、これまた筆者がかつて述べたところではあるものの(「元代漢人知識人研究の課題二、三」[『中国—社会と文化』5、1990])、統一された条件のもとでの系譜記事がまとまって記載されているという点において、有用な史料であることはまちがいない。

では、これらの明代登科録中の先世記事は、元朝士人社会、あるいは元明交代期の地域社会の研究に、どの程度役に立つのであろうか。

まず、確認しておかねばならないことは、先世記事があるのは登科録のみであって、会試録にはないことで、したがって、先世記事については、現時点では、47回の科挙についての情報があることになる。ただし、ここで関心の対象としているのは、宋元、とくに元代にわたる記事のことであるから、より早い時期の登科録であるほど有用であることは言うまでもない。しかしながら、一覧を見ていただければわかるように、洪武・永楽期に対象を限定すると、これまでに影印されているのは、洪武4年(1371)、建文2年(1400)、永楽10年(1412)の3回のみで、しかも『明代登科録彙編』所載の影印本で見ると、建文2年の登科録には先世記事がないから、使えるのは2回だけということになる。ちなみに、その次は宣徳5年(1430)となる。さらに、洪武4年については、先世記事があるのは、二甲までの20人にすぎない。この点は、『藝海珠塵』革集所収の洪武4年登科録も同じである。この時期の登科録の残存が少ない背景としては、洪武6年から16年にかけて科挙が実施されなかったことも、1つ挙げられるであろうが、もし、それ以外に指摘すべき理由があれば、お教えをいただきたい。いずれにせよ、上海図書館にあるという、永楽13年の登科録の影印公開を期待したい。

もっとも、宣徳以降においても、先世記事、主として曾祖の項に、元朝時代での地位について注記されている人物が、弘治6年(1493)まで確認できている。弘治6年は元明交代から130年弱、ずいぶん長い間にわたって記事があることにはある。その一方で、各登科録とも先世記事に注記のある元代の人物の数は決して多くはない。洪武4年については、三代のうちのいずれかが宋元時代に地位を有していた者が、20名のうちに7名おり、他とは様相を異にするが、これへの検討は別の機会として、以後については、筆者が数えた限りでは、次のようになる(父、祖が元の官職を有する場合を含む)。

永楽10年・7名、宣徳5年・19名、宣徳8年・6名、正統4年・9名
正統7年・14名、正統10年・9名、正統13年・4名、景泰2年・7名
景泰5年・21名、天順4年・7名、天順8年・6名、成化2年・12名
成化5年・4名、成化11年・なし、成化14年・1名、成化17年・なし
成化23年・2名、弘治3年1名、弘治6年4名

人数の多い少ないは、その年の進士登第者の数にかかわるが、ざっと計算したところでは、宣徳5年(1430)が19%であるほかは、永楽10年を含めて1ケタで、当然のことながら漸減していく。ちなみに紹興18年の場合、宗室と未記載者を除いた登第者のうち、私の計算では19.7%の曾祖父が出仕している。

もう1つの問題は、これらの記事について、どれだけの信頼が置けるかだ。1つには、他の文献に名前が見える人物がきわめて少ないこと。もちろん、元朝時代の地位といってもさまざまで、その多くは低い地位であり、しかも、千戸、百戸などの軍官系のポストが多いから、よほどの偶然がなければ文献に名前の残る方が珍しいことは言うまでも

ない。だから、当然といえばそれまでなのだが。2つ目に気になるのが、たとえば、弘治6年の進士に濱州の王綬という人物がいる。その曾祖父として王思誠という名前が見えるが何の注記もない。元の有名な王思誠は同じ山東でも、兗州磁陽の人だから、別人なのだろうが、このように、出仕についての記事がない人物が、すべて元朝とかかわりをもっていなかったのではなかろうか。ある記事が「無い」ことについての立論というのはなかなか厄介で、ここに影印されている登科録の原本がどのような状態なのかが、筆者には確認できないので、欠落が本来のものなのかどうか、という疑問も成立しないわけではないことには至っては、なんともしようがない。とりあえず、この影印本に拠るしかないが、このことは心に留めておく必要がある。

今回は、紙数に余裕がないので、基本的な整理と問題の提示にとどめ、具体的な人名事項にかかわる検討は、今後のこととさせていただきます。

付記

本編は、平成17年度～21年度科学研究費特定領域研究A「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」のうち研究課題「中国科挙制度からみた寧波士人社会の形成と展開」の分担研究者としての研究成果の一部である。

(もりた けんじ 奈良大学)

天一閣蔵明代科挙録選刊所収登科録会試録目

この目録は、『天一閣蔵明代科挙録選刊』（寧波出版社）所収の明代の登科録（2006）と会試録（2007）について、その利用の便を図るために、『明代登科録彙編』（台湾学生書局，1969）所収の登科録、会試録を加えるとともに、各所蔵機関の所蔵情報について、

中国 『中国古籍善本書目』（上海古籍出版社，1989）、『北京大学善本書目』

台湾 『国家図書館善本書志初稿』（国家図書館，1996－）

日本国内 「漢籍データベース」（京都大学人文科学研究所漢字学研究文献センター）を、それぞれ参照して、版本・景照本などの所在を注記した。行頭を下げ、※を付したものは「選刊」に未収録のものである。なお、配列については試験の年代順にしたがい、答科録を前に、会試録を後に配列した。また、所蔵機関については、以下の略号を用いた（省名を表示したものは各省図書館）。なお、今回影印されたものについては、天一閣の所蔵表示は省略した。

中国国家図書館（北京）：北京、上海図書館：上海、国立国家図書館（台北）：台北、北平図書館旧蔵善本：旧北平、天一閣：天一、国立国会図書館（東京）：国会、京都大学人文科学研究所：人文、国立公文書館：内閣

洪武四年進士登科録（1371） 『藝海珠塵』革集所収

洪武四年会試録

※建文二年殿試登科録（1400） 上海、旧北平、明代登科録彙編（用鈔本影印）、東洋文庫（用国立北平図書館旧蔵刊本景照）、国会（北平図書館善本書膠片）

※永楽九年進士登科録（1411） 上海

※永楽十年進士登科録（1412） 旧北平、明代登科録彙編、東洋文庫（用国立北平図書館旧蔵刊本景照）、国会（北平図書館善本書膠片）

※永楽十三年会試録（1415） 上海

宣德五年進士登科録（1430）

宣德五年会試録

宣德八年進士登科録（1433） 北京

宣德八年会試録

※正統元年進士登科録（1436） 上海

正統元年会試録 台北

正統四年進士登科録（1439）

正統四年会試録

正統七年進士登科録（1442）

正統七年会試録

正統十年進士登科録（1445）

正統十年会試録 旧北平、明代登科録彙編

正統十三年進士登科錄 (1448)
正統十三年會試錄
景泰二年進士登科錄 (1451)
景泰二年會試錄
景泰五年進士登科錄 (1454)
景泰五年會試錄
※天順元年進士登科錄 (1457) 台北、明代登科錄彙編、人文 (用台北國立中央圖書館藏刊本景照)
天順元年會試錄
天順四年進士登科錄 (1460)
天順四年會試錄
天順七年會試錄 (1463)
天順八年進士登科錄 (1464)
成化二年進士登科錄 (1466) 北京
成化二年會試錄
成化五年進士登科錄 (1469) 旧北平、明代登科錄彙編、東洋文庫 (用國立北平圖書館旧藏刊本景照)、国会 (北平圖書館善本書膠片)
※成化八年進士登科錄 (1472) 旧北平、明代登科錄彙編、東洋文庫 (用國立北平圖書館旧藏刊本景照)、国会 (北平圖書館善本書膠片)
成化八年會試錄 (1472)
成化十一年進士登科錄 (1475) 北京
成化十四年進士登科錄 (1478)
成化十七年進士登科錄 (1481)
成化十七年會試錄
成化二十年會試錄 (1484)
成化二十三年進士登科錄 (1487)
成化二十三年會試錄
弘治三年進士登科錄 (1490)
弘治六年進士登科錄 (1493)
※弘治九年進士登科錄 (1496) 台北、明代登科錄彙編、人文 (用台北國立中央圖書館藏刊本景照)
※弘治十二年進士登科錄 (1499) 上海
弘治十二年會試錄
弘治十五年進士登科錄 (1502)
※弘治十五年會試錄 (1502) 明代登科錄彙編
弘治十八年進士登科錄 (1505) 台北、明代登科錄彙編、人文 (用台北國立中央圖書館藏刊本景照)

弘治十八年会試錄

※正德三年進士登科錄 (1508) 北京

正德六年進士登科錄 (1511)

正德六年会試錄

正德十二年進士登科錄 (1517)

正德十二年会試錄

※正德十六年登科錄 (1521) 台北、明代登科錄彙編、人文 (用台北國立中央圖書館藏刊本景照)

嘉靖二年進士登科錄 (1523)

嘉靖二年会試錄

嘉靖八年進士登科錄 (1529)

嘉靖十一年進士登科錄 (1532)

嘉靖十一年進士同年序齒錄 (1532)

嘉靖十一年會試錄

※嘉靖十四年進士登科錄 (1535) 台北、明代登科錄彙編、東洋文庫 (用國立北平圖書館舊藏刊本景照)、人文 (用台北國立中央圖書館藏刊本景照)、国会 (北平圖書館善本書膠片)

※新刊嘉靖拾肆年進士登科錄 內閣、人文 (用東京內閣文庫藏明刊本景照)

嘉靖十七年進士登科錄 (1538) 旧北平、明代登科錄彙編、東洋文庫 (用國立北平圖書館舊藏刊本景照)、国会 (北平圖書館善本書膠片)

嘉靖二十年進士登科錄 (1541) 上海

※嘉靖二十年会試錄 明代登科錄彙編

嘉靖二十三年進士登科錄 (1544) 台北、明代登科錄彙編

嘉靖二十三年會試錄

嘉靖二十六年進士登科錄 (1547) 上海

嘉靖二十六年會試錄

嘉靖二十九年進士登科錄 (1550)

嘉靖二十九年會試錄

嘉靖三十二年進士登科錄 (1553) 北京

嘉靖三十二年會試錄

嘉靖三十五年進士登科錄 (1556)

嘉靖三十五年會試錄

嘉靖三十八年進士登科錄 (1559)

嘉靖三十八年会試錄 台北

嘉靖癸丑進士同年便覽錄 (39/1560) 明代登科錄彙編

嘉靖四十一年進士登科錄 (1562) 北京、台北、人文 (用台北國立中央圖書館藏刊本景照)

嘉靖四十一年會試錄 台北

嘉靖四十四年進士登科錄 (1565) 北京

嘉靖四十四年会試錄

※隆慶二年進士登科錄 (1568) 旧北平、明代登科錄彙編、東洋文庫 (用国立北平図書館旧蔵刊本景照)、国会 (北平図書館善本書膠片)

※隆慶二年会試錄 明代登科錄彙編

※隆慶五年進士登科錄 (1571) 天一

隆慶五年会試錄

萬曆二年進士登科錄 (1574)

萬曆二年会試錄

萬曆五年進士登科錄 (1577)

萬曆五年会試錄

※萬曆八年進士登科錄 (1580) 台北、明代登科錄彙編、人文 (用台北国立中央図書館蔵刊本景照)

萬曆八年会試錄

萬曆十一年進士登科錄 (1583)

萬曆十四年進士履歷便覽 (1586)

※萬曆丙戌科進士同年總錄一卷 (14/1586) 明代登科錄彙編

※萬曆十四年会試錄 明代登科錄彙編

萬曆十七年進士履歷便覽 (1589)

※萬曆二十年壬辰科進士履歷便覽一卷 (1592) 台北、明代登科錄彙編

萬曆二十三年進士履歷便覽 (1595)

萬曆二十六年進士履歷便覽 (1598)

※萬曆二十六年進士登科錄 (1598) 上海

萬曆二十九年進士履歷便覽 (1601)

※萬曆辛丑会試錄 (29/1601) 台北、明代登科錄彙編

※萬曆二十九年進士登科錄 浙江

萬曆三十二年進士履歷便覽

※萬曆三十二年進士登科錄 (1604) 上海

※萬曆三十五年進士登科錄 (1607) 北京

※萬曆庚戌科序齒錄殘 (38/1610) 明代登科錄彙編

※萬曆己未会試錄 (47/1619) 台北、明代登科錄彙編

崇禎四年進士履歷便覽 (1631)

崇禎七年進士履歷便覽 (1634)

崇禎十年進士履歷便覽 (1637)

崇禎十三年進士履歷便覽 (1640)

国朝河南進士名錄

皇明安吉進士錄

皇明進士登科考、明貢舉錄